

討論メモ 「日本の核武装について」

令和8年2月17日

森田晃司

1. 当月は、下山健夫さんが、AI を活用して作成したレジメに基づき表題について考えてみました。

最初に下山さんに、レジメに沿って、

- ① 。国内外の政治家、識者などの発言や意見の紹介。
- ② 。日本周辺各国の核保有状況。
- ③ 。日本の核武装実現に向けての技術面の可能性。
- ④ 。核武装実現のための政治面、経済面、技術面における課題。

を解説いただいた。(詳細は専用ページに掲載)

2. 続いて出席者6名による自由討論に移り、下記のような意見が出されました。

- ・日本は吉田茂以降、軍事力は保持しない、核武装はしないという姿勢だ。
- ・佐藤栄作元首相は、ライシャワー大使と何度も核保有について討議したそうだが、国内世論の反発を考慮して、核武装を断念、結局は「非核三原則」を打ち出した。
- ・韓国世論は65%が自国の核武装を支持している。米国も韓国の原子力潜水艦建造を容認する構えだ。

- ・戦術核は被害が少なくて済む分、使いやすいともいわれている。
- ・日本は核アレルギーが強いので、レーザービームや米軍がベネズエラで使用したと主張しているディスコンボビューラーなど非核の新兵器を開発するほうが早いかもしれない。
- ・一昨年、日本の被団協がノーベル賞を受賞したが、これは日本国内で非核の世論を高めるための政治的パフォーマンスだ。
- ・極秘で核武装のための準備を進めるべきだ。
- ・日本国内は米国のスパイだらけだ。極秘の作業などは難しいのではないか。
- ・日本には核武装のための潜在的能力があると海外に認められている。
- ・ただ、抑止力となるためには、力を見せる必要がある。
- ・ソ連時代にはウクライナに核施設があったが、独立後撤去した。残っていれば今回のロシアの進撃は避けられたのか。
- ・インド・パキスタンは核保有したことで、争いが減ったと言える。
- ・日本では長く、核武装の是非の議論さえできない。

- ・原子力潜水艦の建造ぐらいは始めるべきだ。米国と交渉すべきだ。
- ・核武装の前に、美しい国日本をを守り抜く気概を取り戻すことが必要だ。
- ・西洋を手本に明治以来富国強兵に努めてきたが、日本本来の思想に立ち戻るべきだ。

以上